

8月24日（木）営業開始！

京王新線新宿駅に個室ブース型シェアオフィス 「STATION BOOTH」が初登場！

- 京王電鉄株式会社（本社：東京都多摩市、取締役社長：都村 智史、以下「京王電鉄」）と東日本旅客鉄道株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：深澤 祐二、以下「JR東日本」）は、JR東日本が展開する個室ブース型シェアオフィス「STATION BOOTH」を京王新線新宿駅に2台設置し、8月24日（木）から営業開始します。
- 「STATION BOOTH」は15分単位で利用できる個室ブース型シェアオフィスです。「STATION WORK」会員のお客さまは事前に予約して利用することができるほか、非会員のお客さまでも交通系電子マネーでのお支払いで利用することができます。ブース内には電源、Wi-Fi等が完備されており、急な打ち合わせやお仕事のほか、外出先での隙間時間にもご活用いただけます。
- 今後も、京王電鉄とJR東日本は駅がお客さまにとってより一層便利・快適な環境となるよう、「STATION BOOTH」の設置によるワークスペースの拡大や各種サービスの提供を進めてまいります。

※一部、交通系電子マネーでのお支払いができないSTATION BOOTHもあります。

※京王新線新宿駅に設置するSTATION BOOTHは交通系電子マネーでのお支払いが可能です。

《京王新線新宿駅 STATION BOOTH》



▲外観イメージ



▲室内イメージ

詳細は次ページのとおりです。

1. 概要

(1) 設置場所

京王新線新宿駅 新都心口 改札外

(2) 設置台数

2台

(3) 利用可能時間

7:00～21:30

(4) 営業開始

8月24日(木)

(5) 利用方法

① 会員登録

専用WEBサイトより会員登録をしてください。

専用WEBサイト：<https://www.stationwork.jp/login>

② 予約

専用WEBサイトより利用したい日時を選択のうえ予約してください。

③ 利用開始

予約時間になりましたら、専用WEBサイトのマイページに表示されるQRコードまたは事前に登録をしている交通系ICカードにより入室することができます。また、予約をしていなくても、ブースに空きがあれば交通系電子マネーでのお支払いで利用（ドロップイン利用）することもできます。（会員登録も不要です）

(6) 利用料金

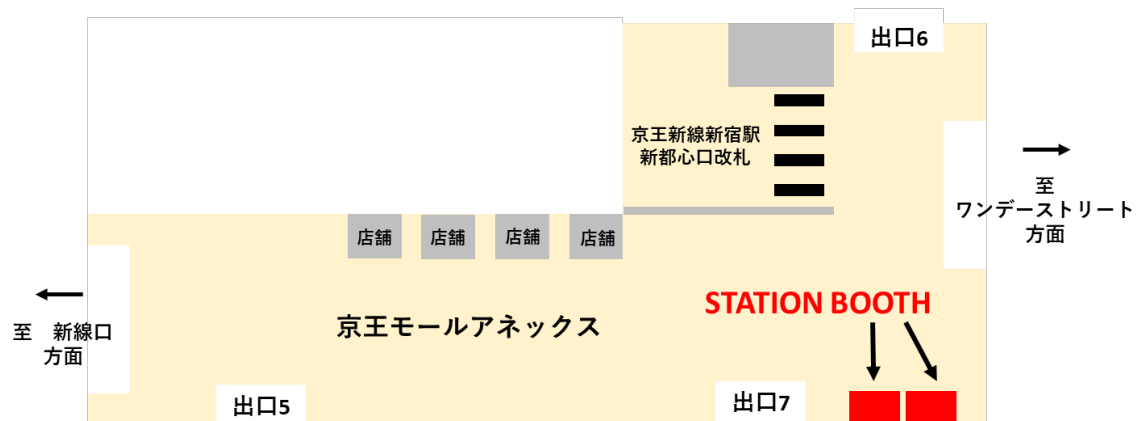
275円(税込) / 15分

(7) 決済方法

- ・事前予約による利用の場合：クレジットカード
- ・ドロップイン利用の場合：交通系電子マネー

(8) 設備・サービス

1名用完全個室ブース、机、椅子、電源、USB、専用Wi-Fi、モニター、空調



《設置場所詳細》

【参考1】JR東日本が展開するシェアオフィスについて

「STATION WORK」は、2019年8月にサービスを開始したJR東日本のシェアオフィス事業です。個室ブース「STATION BOOTH」や、コワーキング等を始めとするワークプレイスを提供することで、多様化する働き方をサポートし、ソリューションを提案していきます。2023年度1,000カ所体制に向けて、今後も拠点拡大を進めます。

STATION WORKは全国800カ所のネットワークへ

駅の完全個室でテレワーク STATION BOOTH

- WEB会議に最適な1名用完全個室ブース
- 首都圏主要駅・新幹線駅などに拡大中
- 15分単位でクイック利用に最適



▲ STATION BOOTH

応接完備の駅直結コワーキング STATION DESK

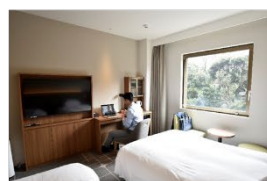
- 東京駅・横浜駅等全6カ所超展開ワークスタイルに合わせて多様な席が選べます。
- STATION DESK東京premiumには商談可能な応接室を完備



▲STATION DESK東京premium

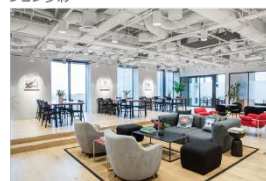
多様な働き方をサポート 提携店(ホテルシェアオフィス、コワーキング等)

- 半日から1日単位で利用可能
- 快適で上質な空間で集中ワーク
- 北海道から沖縄まで日本全国に展開拡大中



▲ホテルメッツ目白

- 半日単位でのバックプランや利用時間に
応じた従量課金プランを提供
- ラウンジスペースから個室までパリエーション多彩



▲WeWork

【参考2】直近の京王電鉄とJR東日本グループの駅サービスの連携について

JR東日本および株式会社ジェイアール東日本企画が展開する外出先でのベビーカーレンタルサービス「ベビカル」を2022年7月より京王多摩センター駅、吉祥寺駅に、2023年3月より渋谷駅に導入するなど、駅サービスにおける連携を進めています。今後も駅サービスなど相互に連携することにより、駅でのお客さまの利便性向上や新たな付加価値提供を目指していきます。



《ベビカル（渋谷駅）》